科目名	病態情報解析特論（Advanced Study on Pathophysiological Laboratory Sciences）			科目コード	M318
選択区分	選択	履修時期	1前	単位数（時間）	２単位（30時間）
担当教員	山口　文徳			関連DP	医③④
授業概要	病態情報に関して生体内でおこなわれている情報伝達機構やシグナルについて分子レベルからマクロレベルまでを解説し、解析法および結果の解釈について教授する。				
授業目標	医学・生物学の進歩により生体の機能は分子レベルまでさかのぼることができる。学部で学んだ解剖生理学および病態学をさらに深く理解することにより、検査で得られるデータが何に由来しているのか、臨床での応用力・展開力の向上と研究遂行能力を養うことを目標とする。				

授業内容とスケジュール

回	項目	内　　容
1 2	ガイダンス	生体内の情報伝達機構−分子からマクロへ−
3 4 5	神経系の分子機構と疾患の検査、診断、および先端研究の動向	神経系の情報伝達機構や中枢性・末梢性の神経疾患、脳腫瘍などのメカニズムと検査、診断、および先端研究の動向について教授する 視覚、聴覚、体性感覚など感覚系のとシグナル伝達機構について教授する。
6 7	感覚系の分子機構と疾患の検査、診断、および先端研究の動向	神経系の情報伝達機構や中枢性・末梢性の神経疾患、脳腫瘍などのメカニズムと検査、診断、および先端研究の動向について教授する 視覚、聴覚、体性感覚など感覚系のとシグナル伝達機構について教授する。
8 9 10	生活習慣病の分子機構と検査、診断、および先端研究の動向	糖尿病や高血圧、生活習慣病のメカニズムやシグナル伝達機構、検査、診断、および先端研究の動向について教授する。
11 12 13	がんの分子機構と検査、診断、および先端研究の動向	がんのメカニズムやシグナル伝達機構、検査、診断、および先端研究の動向について教授する。
14 15	総括	総括および課題のプレゼンテーションとディスカッション
成績評価方法		課題レポート（70%）、プレゼンテーションとディスカッション（30%）で評価する
必携あるいは 参考図書・文献		適宜、英文・和文論文及びプリントを配布する。
授業時間外の 学習について		
関連科目		301 臨床検査技術学特論、302 医療技術科学研究方法論Ⅰ、 319 病態情報解析演習
備　　考		ディスカッションを通じて主体的、積極的な講義への参加を希望する。